



近世名家書畫談二編

四





近世名家書畫談二編卷之四目次

- 戸田茂睡翁異傳
- 尻了然の傳
- 播州加茂山の三大字

附録

- 文字の起原
- 画圖の濫觴
- 畫法諸體古より備る事
- 畫の徳世の治乱小預る事
- 諸先生真跡落款式附



名家書畫談二編 卷之四目次

近世名家書畫談二編卷之四

雲煙子 安西於菟編次

戸田茂睡翁異傳

戸田茂睡初名八兵衛後渡邊茂若清門恭光と云梨本菴
 まゝ寒露軒と号を寛永六年五月十九日駿府御城三丸
 ありて生る渡邊監物忠が六男あり父の忠八戸田と五君夷の忠
 勝が次男渡邊山城守が賀養子と成り後駿河亞相の老
 小命せしむる六千石城賜り後亞相公涉事して下野那須郡
 上庄黒羽小閉居を此時翁八才あり後涉免を江戸小
 住をその以兄渡邊久左清門善石より合力城受る伯父

戸田若右衛門が許小養をる此時伯父の厄介して本多家
忠小住の三百石を賜ふ書付今信州小あり即本郷森川
宿邸中小住を門小大樹の梨あり一松をて梨本菴と
号せしあり戸田ハその儘伯父の氏名あり一その後延
寶の末年小仕城辭して金龍山の邊小居住すること紫
の一本小見ゆツの額有草菴の記と云我聞大隱隱於市
朝粵有戸田氏某者ト居於湘左良位數十歩之外
非山非浦所謂隱市朝者也其菴雖小而又獨立群
家多絶景矣遠望山櫻則思荆公之吟近見川流感
夫子之言云云

熊小阿のま虎あま阿ま涉茶小あきまをこれを雅うさるる
小笠原俊長大人が考小紫のてそとハ此公翁が著述を隱名
紙遺佚とせし事ハ茂睡が深意ありての事あるべしその
序文小遺佚して怨ざるハ淺草の隱士ハ氣味ありと彼柳
下恵が遺佚而不怨厄窮而不憫の行ひ紙を以て其身
幼小して下野國那須へ放棄せしめてを怨むを免の上
浪人と成て困窮小至まを清貧紙樂てしよまを意
紙含めて遺佚の字紙切出せしありと云此説大小當
まじりと思はる

予友信州の人市川信壽が花せる戸田元周筆記一冊あり

是城見一公翁ハ紀州の人ナリ中當金龍山の麓ニ居住身の
 かくま家といハ名歌より人舉こぎて隱家茂睡うくまがのりと呼より別わかる
 ち山と云ハ其名國ニ所ところニ有あるともさだめがこしし去いる
 當山城待乳山と相極ある事茂睡翁より始はる此翁隱遁うくまがのり乃
 こぎり愛子あいこふかくま高野山たかのの登のぼり時大磯の嶋立澤うりたを
 哀あまきハ母ははの人の袖そでをうて嶋立澤うりたに殘のこまことハ葉
 とハ歌城石碑せきいに殘のこし其節ふしこの山やまを一首城しやう笛ふえ吹ふきぬ
 光陰ひかりのりり昔むかしと成なり傳つたる久ひさく小こまきとてとる小情こころ有人ある乃
 此節右の歌のころ城しやう梓すきふちりち見みししらぬ人の眼まなこに
 毛又歌の徳とくなるべーまこと小結縁むすまひの種たねと毛けなるべくあら

一ハ感かんトとけけああささかかぎぎりりああくくああぬぬのの法師ほうし入道にゅうだう予
 がゆゆりりたりり人ひとああままばばままるる道みちののことハ葉は城しやう手向てむかひの香かほ花はな
 と毛けなるべーまこととよよくくぬぬ三十一文字さんじゅういちぶつじととりりああむむ綴つづりり石いし上うへ小
 備ひハ拜伏らいふくニ懷舊わいこのころ城しやう 戸田勘右衛門元周拜上
 阿あままききハはいと我身わがみのままち山夕やまゆふ越行えつぎやうとああららぬ人ひとののああま
 市川信壽云元周幼名薩太郎後勘右衛門と改実ハ茂睡
 二男ふたごああまま共ともかかののままととかくかくせせりりありあり信州佐久郡相木
 村向平と云いふふああて遁世とんせい閑雅かんが又和歌城わがよくよく詠歌えい茂睡むす
 鳥の跡あとハ数首かずしゆ出いででるる歌林尾花うたのしんぼが末すえハ毛花けののころころふ
 久ひさままててハはららひひ安やすく見みぬ色いろハ嵐あらしええららなな花はなののころころ名な城しやう

真蹟巻軸三十首の中名初ふゆきと今こふ出ま
竹内惟庸御点あり

山

法師茂隆

聖の世とゆふ心とつらふん
身乃くもりの山とてなす

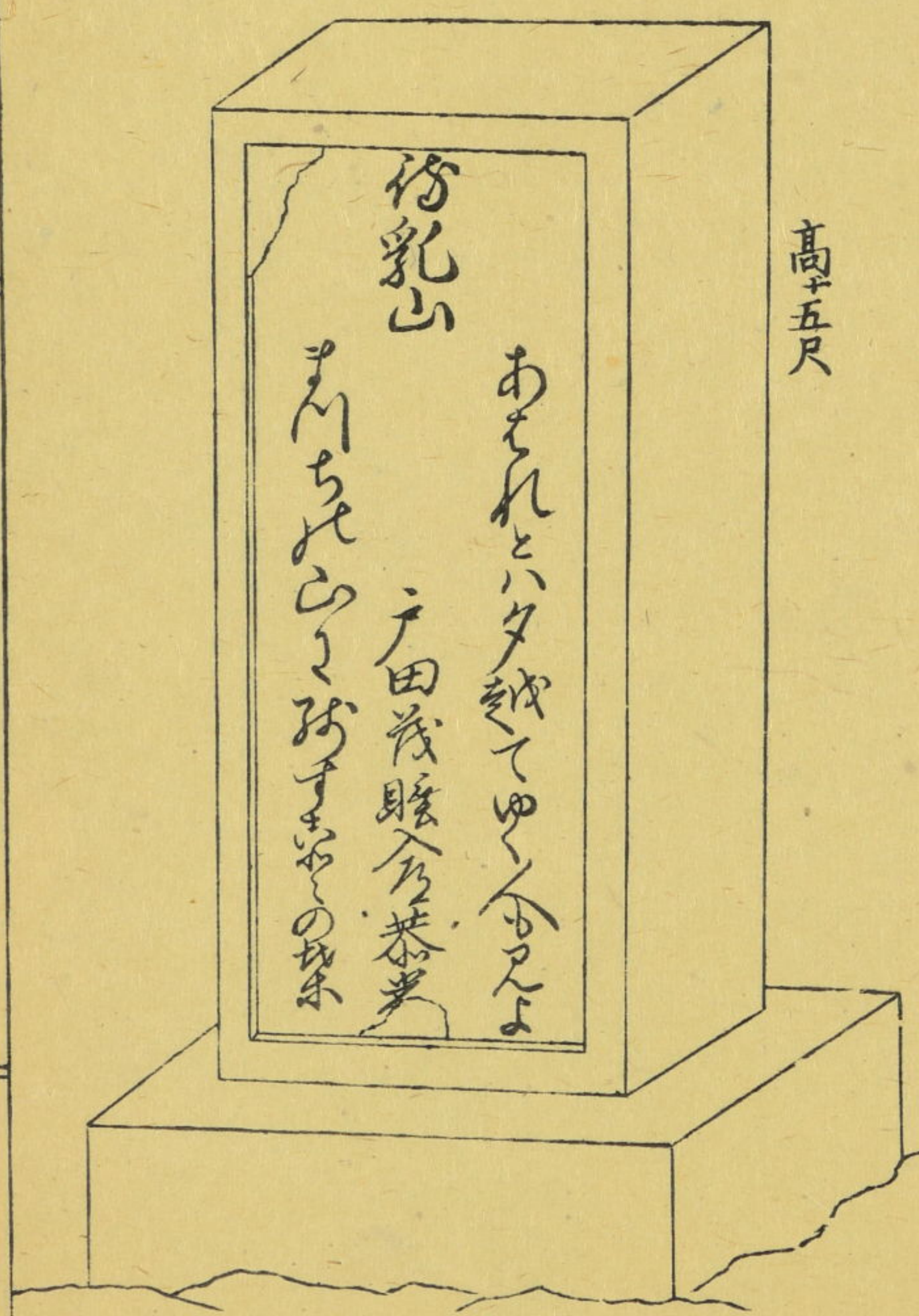
待乳山 金龍山本龍院

天台淺草寺末

聖天町

聖天宮社右之方立碑

高五尺



待乳山

あまれとハタ成てゆふ心よ

戸田茂隆の奉書

身乃くもりの山とてなす

かどつり元文二年八月十日没徳岩道祐居士同所禪宗大
龍寺小葬

按る小元周ハ茂睡翁の二男なる微細ハ未だ考むる人
翁ハ紀州の人といハ如何なる故也由縁あることなる
男伊右衛門ハ茂睡故つりて續一之ハ本氏渡邊名
一他より弥三郎城養子して戸田の名跡城継一之
更城をてあま時ハ二男ハなきと思ふ志なき共信州
墓所あり或ハ所縁の家ありて書跡なきと出さる城見ま
又いふなりや委細ハ信壽追て事跡を贈るより嗣篇ハ
載まづ一又元周夫婦生涯の俸禄江戸より来るより

里老傳ハ云何家よりといハ事城志む予信州より出る所
の茂睡翁歌三十首又七首の巻軸城得たり既ハ真跡城雙
釣して梓行を其中彼名歌が載ま

ちりの世とあま心えつりてハ身のうき家あまの山とあま
隣女悟言ハあま心えつりて山とあまなりとつり萍の跡
ふハいふ心と一山とこそあまを何りつりまを後人の誤傳
一そのハ茂睡翁真蹟ハ是まで世上ハある事稀なり故ハ
輪池屋代翁檜山成徳老など常ハ見まく欲せしを遂ハ
知らむて世城去りしを遺憾少くむ古筆の伴大人
此信壽が持来る雪の巻軸城見て初てかくのごとき真跡

城見よりとて大に感賞せしむるよし是まど埋まけりし
その信州の山中より出ると八宮小田野山林小大賢の
ことと云亦このごとくきくと思はる

又信壽茂睡翁自筆五色御舍利傳記城持来故ありて
予所藏とあるその文小云五色の舎利ハ駿河今川家相傳
あり今川義元の母儀駿河推野の寺城信仰して今世後
生の為とて此の舎利城志への小納然らるるあり其時の住寺
の後住小興津豊後守といひ一人の甥坊主とあるあり興津
豊後守ハ原上野介が智老則原六郎が妹智ありことこの
母清芳院ハ原六郎が孫娘ありわきま父渡邊監物駿河

府御城代被 仰付妻子共小府中御城あるより右の縁
城以て志いの住持と念以あり此住持年寄りかごを奉りし
まゝ一隠居一跡城駿河安西のまい光寺の渡邊山城守の
旦那寺あり住持小
由づる月日経て隠居老命あやうき城関き清芳院病惱城
さうしたゆ云と下是公幼稚駿府小あり一事の証あり其出所
亦このごとく一餘ハ紫の一を崎人傳萍の跡城を考ふ
男伊右衛門渡邊氏名覚
十八歳まで没の事跡ハ諸書小ゆづりてこゝり載せ
淺草新寺町白雲山金龍寺小夫婦の墓あり
憑雲寺あり一本の茂睡 寶永三丙戌年四月十四日
思ひ跡と事こそなるべき有てうき命のまを城々小向て

雲採院捨山といふ人 元禄十二己卯年二月廿九日

結ひ何々やう黒髪成契りよて来あぐまをひひも愛

又信州相木の郷大龍寺 此寺茂睡翁以中興 墓又過去帳あり

馮雲院殿寺山茂睡大居士 辞世

多つ杯来て准ふとらん草の原露の命の何り一時多小

尼了然の傳

了然禅居名元総大休と号す元来駿州富士の大宮司葛
山何某といふもの武田信玄の子成養て子といひ葛山十郎義
久と号し其子長次郎と云京都泉涌寺門前小閑居し
て茶事成好とよむ古画の鑑定成なるその以世人画見の

長次と称しぬ長次が妻を能書なるその一女即ち了然なり

東福門院小宮仕りやどり木といひ 女院薨御の後仕成

辞して家小何りしが婚姻の事成人媒りたるが常小和歌詩文

成好と頗る禅味ある女あるまば我嫁して子三人生なハ暇成

賜はまきと約して松田晚翠と云醫師の妻となりて廿四五の以

まを小男女三人の子成生と多まば夫小志りぐの事成ひひ遂小

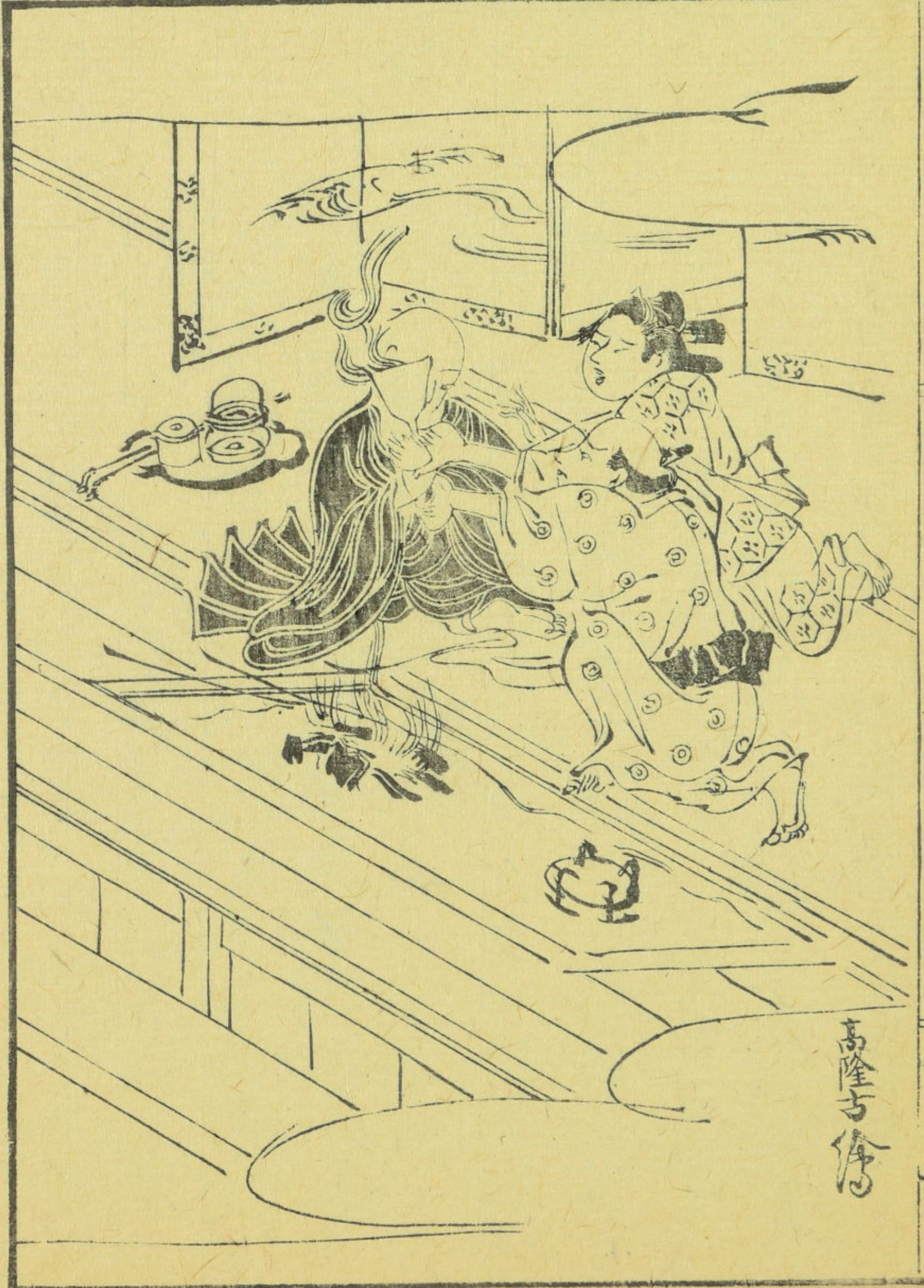
居とあり黄蘗諸禅林小入りて参道ひまなく勤め後深

東小下りて弘福寺鉄牛和尚小法問の事成とこと其容色

美小して艶ある故小寺門小入ること成由るままにそまきより

木菴禅師の弟子白翁和尚の駒込の菴り小在る成まきとて

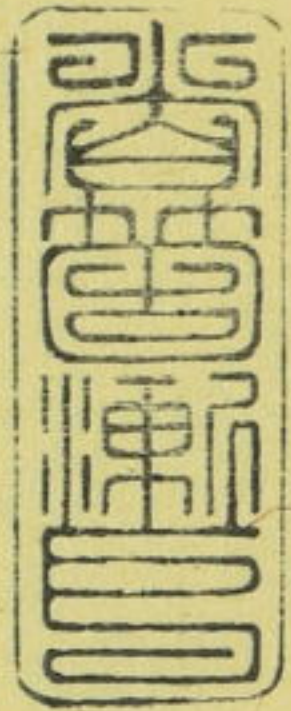
此圖元禄三年
板本江戸賢女
さよ衣として其
ころの貞賢哉
集り画入と本
不載せしむる
川師宣の画あり
臨寫して其ころ
のさよ衣のりん



高隆古傳



江戸賢女集 卷之四



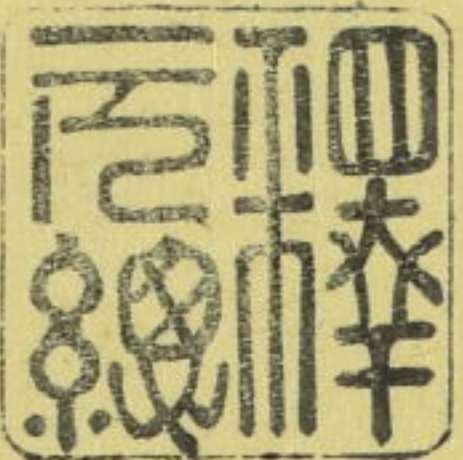
探春月勝秋月之句

のまき字

楽也海秋葉月歩思看
交、落志翁と一宵此乞
再往運去然遊情、

なまき

了於福



尋問して法問のこと紙祓ぐよ白翁をまき美色よ、
儀紙そのつること紙をとりて佛法小意ある者ハか
る紙好まぬまきして容儀紙そのよきいふ道あり其
ことらめてハ寺門小阿んこと紙恐るまきして在任
のるよ座ハ小席紙追拂ふよまきり了然力あ
くして立きりある家小入て去つぐの
こと紙語り傍小阿り多銅器紙火中
小ひまきその内まき物紙案まき
體ありがわら銅釜の深赤り

あり多し紙あつて面頬めんけつふかゝりてぜん顔紙ことごとく
焼爛せうらんして柳筆りゅうひつ紙とりて

燎面皮頌

昔遊宮裡きやくうきやうり焼蘭麝せうらんじや今入禪林いまにぜんりん燎面皮せうめんぱ四序流行亦
如此不知誰是箇中移。

いづも世ふまてたく身やうう海一統の薪と思ひぎりせば
とく吟詠ぎんぎやうして後白翁和尚ごはくおうわうふまてうゝ和尚わうを大おほ感かんして
在位ざいゐ紙し曲まがり後鎌倉ごかまくら小住所せうじよ紙しをもと知んといぞまよまよ紙
きして遺佚いゐつ 戸田茂膳と云人菴室あんしつ小行せうぎやうて

水草の清きころのこと志なき里紙さとしふまてふまてひそめて

とありしハ了然

皆人のきぬまのそまをてありてつる世紙よをむる
相ひでまゝろつ巻軸まきわきの紙遺佚いゐつふあふ是ハその以江戸えど小名
ある歌うたづつ書紙かみの知るるそのありわらむらさ紀き 元禄四年板本と云
書より枝萃えだすいせしその内うち小了然せうぜんが歌

君のありきぬ紙跡かみあとをき草の跡くさあとを形見かたみと云

予が所花短冊小

寄露釋教

きぬるごと身みまはるわく露るしき定じやうなき世の諸しよの教きやう
後武州落合村泰雲寺開基ごぶしゆらくがむらたうんじやうかいきを共とも居いをまて白翁はくおう紙

一本誰作久

初代とて二代と称せしあり正徳元年辛卯九月十八日
没也辞世の詩とて或人の見きりきり

六十六年秋已久凜と月色向誰明。莫言那裡干
夫事耳。熟松杉風外聲。

駿州駿東郡葛山城主葛山播磨守元重尾州田樂窪

葛山備中守味嘉生害信州伊奈郡法善寺葬法善寺武田信玄建立

葛山播磨守長嘉愛智郡省掛

信玄六男

葛山十郎義久

始信貞母池川某女
天正十年三月十二日生害甲州新善光寺葬

葛山宮内久敬

幼名龜丸

宮内為久

小名鍋太郎
称長二郎長爾又鉄

了然居士——葛山長十郎

女桃仙女史

林家門以儒業仕南紀
子孫葛山六郎右衛門現在

南方紀傳二
建武八年八
月八日葛山
備中守經信
トアリ

播州加茂山の三大字

伍石先生の息文峰先生共家学ふて能書の人あり草聖彙

辨其外小毛此先生の校訂せしきし摸刻おりの惜むる

文政四年の春三十二歳ありて没也翁外小子あり其哀

悼りふるる其少年の日湯ふ筆試し三文字あり

道勁ありて斌媚斌ぬ絶作と毛云べし往年天保七年伍石翁

姫路の大夫小随逐し其藩小往きし日その封内の石の

寶殿いづゆるり山と云毛なる石ありその石山試

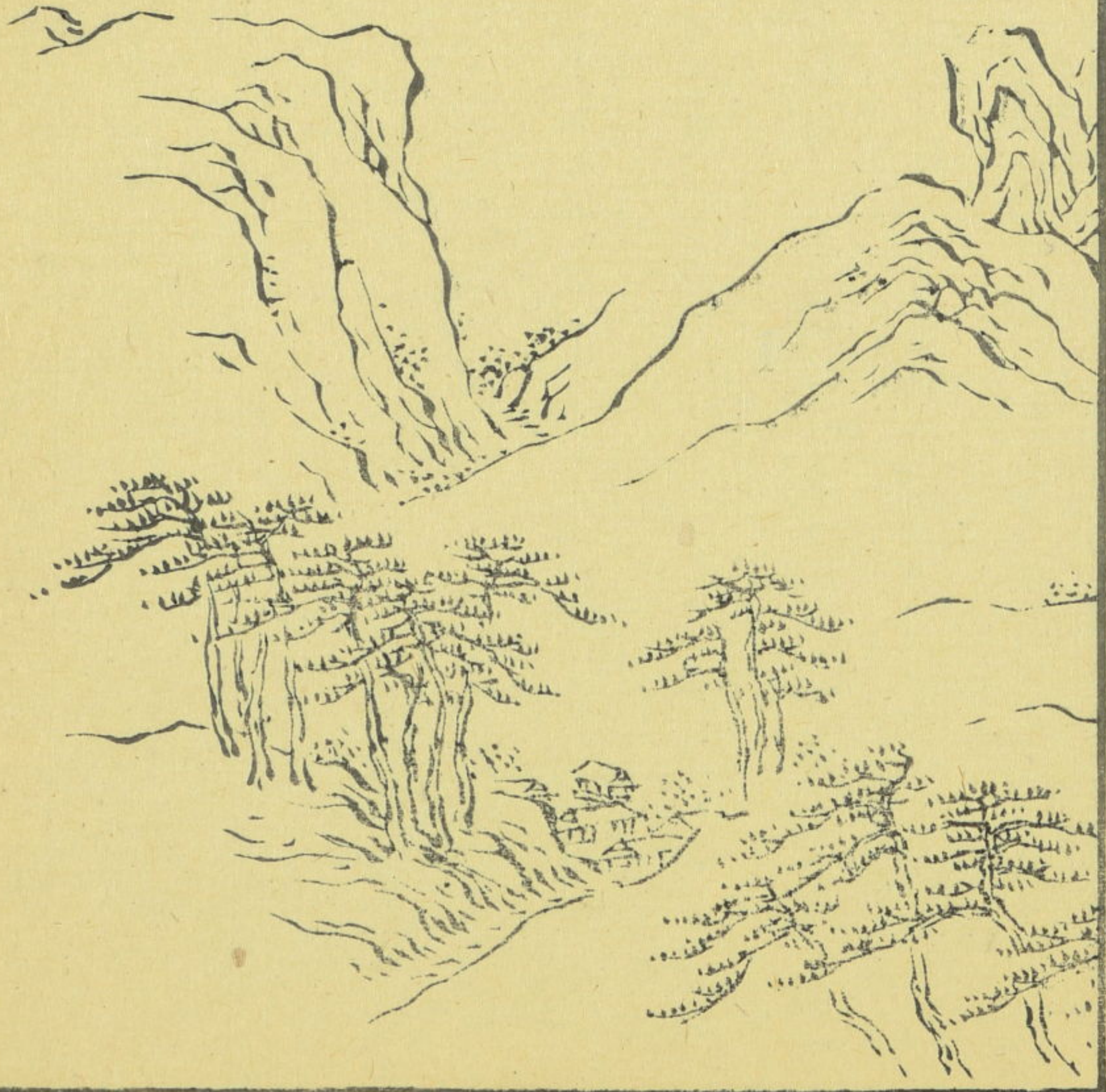
鏡削し七彼三大字斌鏤鏤し不朽小貽縮小也翁小出毛亦

幾ありし下世も行年七十有四歳あり古より翰墨者流



張彦

司馬石極修不成
方函誰嫁與洞名
山雲如練三飛白
松翠如畫揮紫眼
明 之山老人



の説小大字徑丈あるハ作り難きものと云西遊して播陽に至る
ハ其鏗字紙看て能書紙知らるべし此ハ其鏗録するものハ予ガ
翁の徳紙志まはる水紙飲て源紙思ハの徴志あり昔王獻之少
年の時小父逸少と共小會稽小あり時小北館の聖壁の新小就
りて浄自愛まき紙見て子敬献之帚紙取来り侍者小命トレ
是紙泥淖の中小涵浸き免其聖壁小丈四方の一ッの大字紙
漫揮を意紙用ひ多る小非を一時の遊戯ある小結體
勢位驚くべく愛まき一日之觀るその市紙を小い多る
義裁之一日外より悔り来り是紙見て嘆稱ハ所親小書紙
与て曰く子敬飛白大有直とその子紙とる讚美

世々事圖書會粹小見也

近世名家書畫談二編卷之四畢

附録

文字の起原

書畫談編次の因ハ前修ハ同ハこと二三紙ハ挙テ童蒙の
 啓發トなるハ猶是ハ小就テ聞見ハ弘ク免レバ此銷閑の書ハ
 亦学問の一助ナリ先文字の始ハ淮南子ハ訓ハ小
 昔蒼頡作書而天雨粟鬼夜哭トあり劉安呂不韋ハ春秋
 君守ハ見レ由ルの門客ハ杯ハの著述ハ信ハ取ル小足ラざるハとモ秦漢乃
 古書ハ一氣ハ抹ハ撥ハまキ小ハ非ズ繫辭ハ傳ハ小ハ上古結繩
 而治ハ後世聖人易之以書契ト云此文の上ハ上古穴居
 云とあるハ小ハ鴻荒草昧の時ハ漸ク小ハ文物の用ハ云

自然の理ハ文字ハ何人の作ルと云ハ臆ハ妄ハ小近ハ蒼頡ハ
 黃帝の史官ハ杯ハと云ハ揣摩の說ハ信ハ小足ラざるハ羅泌の
 路史ハ小倉帝史皇トと云ハ又古の天子ハあるハ然ル小周禮
 の春官外史ハ小三皇五帝の書ハハ孔安國尚書の序ハ左傳
 昭公十ニ年ハ小據テ伏犧神農黃帝の書ハ三墳ト云ハ少昊顓頊高
 辛唐虞の書ハ五典トと云ハ又ハ天地開闢の盤古ハ氏ハを過ス
 業ハ已文字ハも人ハ有テ制作キあり蒼頡の初テ造ル小ハ非
 ざる事ハ明クあり譬ハ漢の高祖ハ天下ハ一統ハの後ハ秦の苛法
 燭キ法ハ三章トと定めラるハ夫ハ天下ハの女ハ奴ハ禁ト
 難ク蕭何ハ九章の律ハ定ル如ク蒼頡ハ小至テ

文字の数の蕃く成り多るなるべし
 書史會要云炎帝の穗書黃帝の雲書太昊の龍書少昊の鳳書顓頊の科斗書周の文王の史佚虎書成作武王の時禽書與書始るをど等の説ハもとより荒唐無稽の言ハるをどを書ハ画より生ギ、そのと云成知る不足る六書の説ハ周禮の大司徒出でて其一の象形ハ○●ハるを畫ふをづく事明白あり象形のとて天下の事物記載難々まハ會意轉注などの事出来り益々文字の數ハ増益せし事いづひあり結繩の後ハ幾程なく蒼頡なるもの出て文字成制作しつると思ふ誤りあり

秦の蒙恬始て筆成造り後漢の蔡倫始て紙成製を
 かの説を蒼頡制字の説ハ同潤色成加ふるの
 創作ハハるま
 董彦遠の説ハ丹鉛録ハ鄒宋の時ハ臨淄少桐棺乃前
 和棺頭成紙掘り得るハ齊太公六世孫胡公之墓と惟
 三字ハ古體ふて餘ハ漢隸あり又周宣王の石鼓ハ其時の
 史籀の作りたる篆文成用ひたるハ適當を共黃帝の
 時の刀布周初太公九府の圜錢の文ハ秦の李斯が制し
 小篆成鑄りたるハ如何ふぞや時世前後錯乱顛倒甚
 一但書ハ事成記載するをて至簡の穴居結繩乃

世に歴て畫ふそとづきて聖人の制作あり後教聖人
重祕て完備せしものと思ふ處一篆書より草書生
ト草書より隸楷ハ出来り一あり真ハ立が如く行を歩
むが如く牝ハ走るが如くありと云ふ因て草書ハ楷行の後
ハ出来り一とあり一處より立行走ハ書札成學ぶ准
次成論むる言あり

畫圖の濫觴

畫ハ今日より見ると時ハ呂覽勿躬小史皇作圖の言ありハ繪畫の祖とも云き世用適切の技
能ハ非ざるハ似たり是ハ深くおぼざるあり禮義文物ハ
聖人の天子天下成治め上下成定免らる大用あり其弟

一ハ舜の禹ハ命せしむ益稷予欲觀古人之象日月

星辰山龍華蟲作會とあり是畫の禮儀の重典ハ用ひて

駁くハざるの證據あり周禮考工記并論語繪事採

え禮典服章のことあるべきり後世玩弄の山水花鳥を

是より胚胎をとおぼる春秋時世左傳の富艷をふ

畫の事きと共沈諸梁葉公子高の畫龍成好む

說ハ劉向の新序卷五ハ見ゆ戰國ハ至てハ高貴の人の此

技成弄ぶと一も今の諸侯の圖画成愛せしむ能ふ

莊子ハ載を宋元君左傳史記共ハ宋ハ元公ありと是る將畫圖衆史比皆至

衆史ハ画工より史職中ハ在るそのる一受揖而立舐筆和墨在外者半有一史

後至云因之舍公使人視之則解衣槃礴坐羸羸君曰可矣是真畫者也。田子方○韓非子容有為齊王畫者鬼神易狗馬難云前引

此一条もて畫手の戦國も多き哉知るべし
本朝畫手の源流ハ延寶中京師の狩野永納が著
を画史の一書にまきば是も譲りて更ふべし

畫法諸體古より備る事

漢家天下一統の後ハ文物まろく盛んたり技能も多
くひろくもハ心史外西京雜記東觀漢紀雜記の多きありに於て知るべ
し武帝曾て画る伯夷叔齊に於て東方朔何者と問ハまじり太古の愚夫と答ハしこと太平廣百卷

七十 小見内漢書外戚傳成帝の班婕妤曾て帝の後

園三小遊遊まじり時車共小せんとりて古の画景
に見る小聖賢の君ハ皆名臣側あり三代の末主を嬖
妾坐小侍もと云に見る小周世以來画筆の多きをも察

まじり元帝の世小匈奴小王嬪に嫁せりるもて畫局毛
延壽の姦邪に志ありる條西京雜記小毛延壽ハ人物小長ト

允そ人の好醜老少小巧小陳敞同時の画博士延壽と同じくハ山川樹木
牛馬奔走の衆勢に善く杜陽望陳敞と同じくハ布色着色と同じく

小妙に得ると見るまじりバ画工の諸體ももて備るりト知る
る一又宣帝元帝の父甘露三年小功臣十一人に麒麟閣蕭何の

未央宮の左閣 小画をせしを免らき後漢明帝光武の子

二十八將を云臺に描寫せしを免らき等ハ勸懲の二端を

政刑大典に属す遊戯小ハ阿まむ

畫の徳を世の治乱に預る事

書ハ心を畫するとしども能書畫を展觀して人意に感動する

嗜好の同じき人に止る画圖をハ人の心を移す事一目

擊つ小はる故に賢知の上をて免是を省覽して戒警とハ又

ハ言意の及ばざるを補ひ速小人に啓發するの徳あり今二此

此に掲て世に示す唐の太宗ハ睿明学識兼備人主を

まと免曾て明堂針灸圖を看る小に因て罪人の背に答ふ此

停らる貞觀政要 五代の周の世宗郭夜書畫を讀て唐の元稹の

均田の易に觀て嘆稱天下諸道に頒ち布て租賦均

くせむ温史及 唐の世に傳来して周公無逸の易あり唐書

玄宗の世に宗璟の奉り歴世の觀戒とハ貽さる其のあり玄宗初年

武后の乱に播ひ心に治道に專らふせる日小ハ常り

この世に坐側に置て民生艱難を忘さざるの箴と後天

下井平富庶の世にあり是を撮して山水の易ありられ

る後をくして天寶安史の乱に醞釀して帝位を失ひ蜀

小奔竄せる困学紀聞の 宋の仁宗寶元の初農家耕織

勤苦の易に延春閣に画る宋史小見由る真宗の朝に孫奭無逸の易に奉りと云後世に

貽たされるを哲宗神宗より弟三世の元符間神宗の子あり小ま山の水の

の急き成りてせし老仁宗神宗より弟三世哲宗神宗の子あり世よ成り御ませらるるの勤きん惰たをそ

推知おしるべし徽宗神宗より弟三世の風流ふうりゆう伎能ぎのう小富こふなる性せいあり

て書画しよゑ小巧せうこうとなり蔡京さいけい童貫どうくわん等の姦人えんじんその嗜好しこう小投せうたし

四方しやうほう搜索さうさくし法帖はうてつ名画めいゑ成り募購ぼくこうふ大觀たいくわん中ちゆう小せう王わう黼ふ小せう

勅ちゆうして纂述さんしゆせしを知らるる宣和せんわ博古はくこ圖ず宣和せんわ改元かいげんより前帝ていの

好事こうじ成り觀かんるふ足たりる其考証きこうしやうの踈繆そまうハ諸臣しよしんの欺瞞きまん成り知るる

當時たうじ汴京べんけい小画学せうゑがくの局きよく成り開きくる天下てんか無事むじの日ひハ非

ざるふるる不急ふきまの道みち小成り委ま任にんらるる遂つい小女真せうにょしん金國きんこく小

攻せうらるる其身そのみハ五國城ごこくじやうの幽囚ゆうきゆうとなりるふ至いたる是ハ書画しよゑ玩好わんこう

小耽せうたんり天下てんかの大務たいふ成り遺失いしつせしを依よてありる元の曠の言小宋の徽宗

項門きやうもんの針はりとりるを一いつ項門きやうもんの針はりとりるを一いつ項門きやうもんの針はりとりるを一いつ

宋の神宗しんしゆう意い成り銳えいして王安石わんし成り用もちひらるる天下てんか是こゝ為な

小茶毒せうちやく成り論辯ろんべん諫けん争そうするその阿あまを帝てい曾そうて聽

用もちひらるる熙寧きねい七年しちねん去歲きそ初秋しよしゆより雨あめなり此四月しよげつ小及せうハ

早せう魁けい成り被ひふる之これ因よて權小新法しんはう成り罷やらるるハ天雨てんう成り

下くだして膏澤かうたく大たい敷しく是ハ司法しふはう參軍さんぐん鄭俠ていけつの流民りゆうみんの急きん成り

進奏しんそうして天子てんし神宗しんしゆう感悟かんごしるるを因よてあり其その以も海内かいなん新

法の惡政あくせいとして征稅せいぜい苛急かきゆうふるるハ東北とうほくの流民りゆうみんの急きん成り

體顔たいげん色しきハ枯瘁こさいしる破やらるる衣服いふく成りもハ身み小鎖械さがい成り

名臣書畫記 卷之四 七

被り尾狐負い木を擔ひ老少相携一羸疾塞路その戀
の慘怛目を當てらまぬ其真小寫せ一鄭俠忠直の至
誠よく天地感動せ一八画の徳小假ると云ふ一その後
侠まゝ呂惠卿ホの姦惡天下の害成るが故ふ上疏之唐
世魏徵及び姚崇宋璟又李林甫盧杞の傳成取り画幅と
あり是小題して正直君子邪曲小人事跡之圖と是
故其時の邪黨小比況して奉問と是を亦神宗の睿衷
啓發せしとあり

安西帛吉著

附録畢

名に在りて中画漢後序

吾々友安西雲烟以中画版張高為景
は考るる家畫中画漢同好者多し先
見之と撰て二編其畫就目之に
觀之と可録也先考之と以論之
之不傳偉子之所逸一似之と意之
為編述焉同或嘗之と陳之几案

以為嬉樂或助醜無二於醜
欵讀渾也。為酒物也。予竊
不嗜之。以為家者。其法
不嗜在博覽。不勞於法。雖
其恬泥。亦如也。身亦以
固宜也。今者生滿。生以
而之。有之。洞見人。身
獲。胸。符。即。之。

爾後我鳥肉。自為。是
其人已。有。故。法。在。名。通。以。之。誰
一。未。能。之。之。弗。懼。將。生。以。讀。佳。化。色
曰。身。自。襟。為。之。快。然。也。雲。煙。之
稱。且。出。於。此。邪。故。生。以。愛。之。士。以。取
購。貯。者。為。托。之。烟。身。必。待。遇。之。生。
物。以。充。之。高。丈。人。之。如。當。易。乎。之。獲。

卷之五
中
上
下
為求廉。負提提携。不低垂。謙。自
法。隊。賈。是。不。意。生。以。事。然。上。意。在
第。暗。福。符。也。夫。虛。價。多。販。積。漸
為。大。而。新。射。前。而。付。二。從。強。是。順
電。銅。死。為。出。市。井。之。古。其。古。之
為。骨。董。董。者。所以。出。中。里。治。符。為。樂。

性利為先。故強以強。上。自。居。然。古
者。玩。好。以。新。古。董。乃。其。所。以。為。不
過。猶。聖。上。佐。之。名。畫。為。家。其。流。之
墨。讀。似。可。之。亦。熟。耳。一。其。於
指。紳。武。弁。大。儒。高。僧。逸。人。之。他。因
非。其。以。談。議。况。於。年。集。友。名。流。乎
蓋。其。淺。且。味。且。事。涉。多。端。也。今。其

卷之五
後序
三

雲煙以字素淺力不強。梓行此冊其福精多。好古風雅之士存之。此策。畫通自道。以源塵勞。以之辨。孰之讀。澤也。不古。運存也。是為後序。

丁巳年二月 法雅大橋 知良 淺



名家
真跡

款字式

雲煙子暮集

惺窩先生

冷泉為景樹惺窩先生之子

抄

藤為景謹寫

藤樹先生

同

後和

中江原拙稿

林家道春先生

熊澤了芥翁

夕顏芙蓉字又

朱舜水先生

人見友元翁

朱舜水先生

陳元贊

既白山人 芝山

元贊題

貝原篤信翁

八十古翁益部書

安積澹泊

貝原先生妻君江崎初女

老圃安覺拜 东村書

室駿臺

室直清

新井白石

中布

雨森東

芳沙

祇園南海

正卿稿

榭原篁洲

勃宰若人

屈南湖

南湖

以上称木門五先生

祇園与南海之子能梅花

焚香讀故人書卷

屈景山南湖弟

仁齋先生

伊上藤維楨題長汎書

東厓先生

仁齋先生四子竹里

伊藤長準中箱園生

宮崎常之進

祖徠先生

不

山縣周南先生

縣考稿

平野

金華平玄中子和父

春臺先生 安藤東野

宗字 待後因好

萬菴和尚 宇佐美瀧水

宗字 宗深 宗直

大潮和尚 賣茶翁

大潮 宗直

趙陶齋 戴笠曼公

息心居士陶齋養篆 宗直

無隱道貴 悟心元明

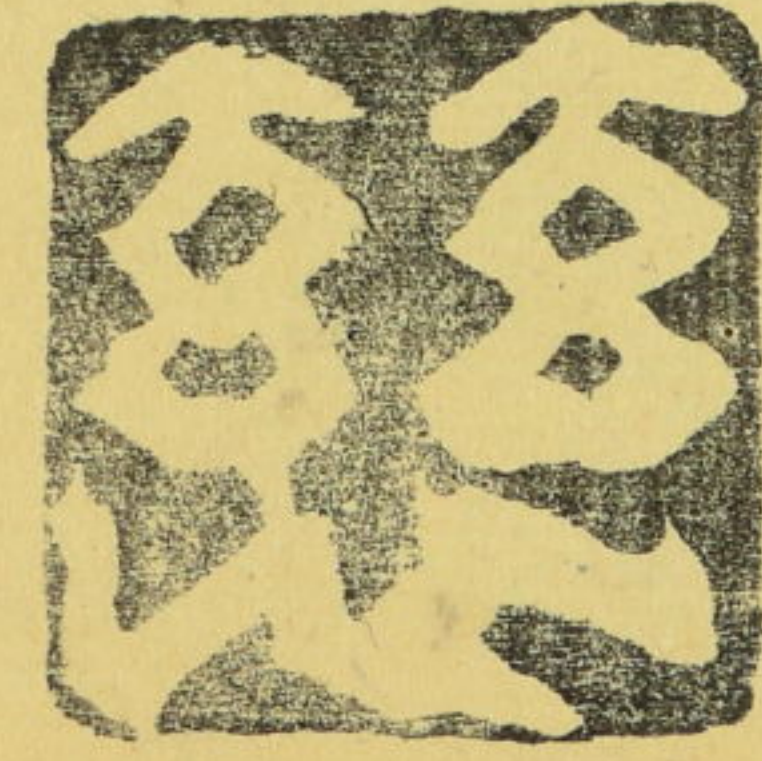
宗直 悟心

無難和尚 大興禪師 宗直 宗直 拜

白川白幽子

漢興道人

漢真漫題 風外禪師



雲居希膺

希膺 宗直 照元書

窮年龜田窮樂 牛馬葛子琴

細合半齋

念慈好字

春水弟仙嶺

甚凡

春風弟万四郎

賴惟未

賴春水

文如屋

尾藤孝肇

河城子

村山退齋

律并題

濱田氏

杏堂

野呂氏

今居第五

長町

素山氏

素嗣燦

竹石

釧就

雲水寫

愛石師

市不

高陽廷冲

高陽山人戲寫

池大雅

辛卯仲夏寫

蓬平信州人大雅門人

畫

霞進者

蘇名

蒹葭堂

吳齋

大島芙蓉妻
羅井女

來禽

八山林

名

柳里恭

公

壘嶂肯露

彭城百川

三熊海棠

做平山業

甲子夏日

彭真潤寫

江才翁

謝蕪村

西村氏

楠亭

寬政士子仲夏寫

丸山主水

吳月溪

應舉

應舉寫

冬夜初之

長澤氏

月溪

日暮

以

駒井氏

源琦

山口

素洵

素洵

崎陽熊代氏

井戸平助

越人森蘭齋

繡江熊斐寫 荃九如 蘭齋森又祥

森祖仙

安藝岷山

肥州人二川幸之進

能櫻花寫真

祖仙 或山 玉珠 寫

桐隱公子

津山之臺山

金子金陵

桐 隱 寫 山 金陵 寫

何帛 光琳門人

平嵐浚明北越名家

太有 何 錦 浚 明 寫

契冲阿闍利

荷田大人

契冲阿闍利 東 万 口 只

荷田

吉川惟足翁

同

管在滿 惟之 學 鳴島道筑

僧涌蓮

鴨祐為

存 之 末 希 仁 海

釋澄月

釋大愚

今西行似雲

加茂縣居大人

逢 山 延 雲 真 洞 鹿

手島信

里村法橋

宗祇法師

長頭丸貞徳

經 卷 之 卷 迄 迄 迄

齊藤氏

池西紫藤軒

井原三芳翁

安原貞徳子

徳元 言水 雅信 西鶴 貞徳

松江重頼

青木氏

瀧野氏

秋色女

雅舟 白梅園 鷺水 彩小 秋色

加賀人庄

五升菴

尾州人僧

鈴木氏

弥源 蝶五 岳捨 宝珠 山 彦

沈氏花鳥

南嶺沈銓

南嶺沈銓寫

寫於皓月

伊葦野山水

山窗 伊葦野山水 松崎 晴之

余崧花鳥

秋亭 余山松寫

李用雲竹

李用雲竹

高乾花鳥

浙西高乾寫

右款字式、真跡、
り模、七、僅、小、名家、数
十、大、球、拳、予、別、子、近
世、名、家、落、款、譜、球、撰
多、り、是、亦、開、彫、近
き、小、何、り、雲、烟、子、識

安西雲煙著目

近世名家書畫談 前編二冊 後編四冊 出来發兌

同 三編 嗣出

真蹟清賞錄 二冊 同

雲烟雜錄 二冊 同

雲烟叢語 二冊 同

天保十五年甲辰六月

江戸

横山町三町目

和泉屋金右衛門

藥研堀埋立地

和泉屋帟 吉

